



ここに掲げるニュースは、国際交流基金日本語国際センターが入手した日本語教育に関する情報の一部です。各ニュースについて、問い合わせ先がわかっている場合には明記してありますので、詳細はそちらへお尋ねください。

# ニュース

## 1996年度日本語能力試験

昨年12月8日に国際交流基金と財団法人日本語国際教育協会が共催した1996年度日本語能力試験の結果がまとまりました。試験は日本国外31の国・地域、70都市と日本国内6地区で行われ、日本国外で70,758人（前年度比約14%増）、日本国内で25,382人（同約4%減）が受験しました。

各級の受験者数、認定者数、平均点は、別表のとおりです。なお、1997年度の日本語能力試験は、1997年12月7日（日）に実施される予定です。

		受験者数 (人)	認定者数 (人)	認定率 (%)	平均点 (400点満点)
国外	1級	16,980	4,395	25.9	238.8
	2級	18,402	4,714	25.6	207.0
	3級	19,137	8,857	46.3	233.2
	4級	16,239	6,038	37.2	216.8
	小計	70,758	24,004	33.9	
国内	1級	15,867	5,688	35.8	251.4
	2級	4,714	1,703	36.1	221.8
	3級	3,220	2,346	72.9	276.5
	4級	1,581	1,046	66.2	262.9
	小計	25,382	10,783	42.5	
合計		96,140	34,787	36.2	

## 編集部から

今回の表紙エッセイは、比較演劇学者の河竹登志夫先生にお書きいただきました。先生は、歌舞伎、能、狂言などの海外への紹介、日本演劇研究者の指導、育成などの実績により、1995年度に国際交流基金賞を受賞されています。

前号、27号の教育実践レポート欄「NRW州立言語研究所」の報告をしてくださいました、的場さんのお名前が間違っていました。正しくは、的場麻理さ

s試験の詳細についての問い合わせ先

日本国外：  
国際交流基金日本研究部企画開発課  
〒107 東京都港区赤坂 1-12-32  
アーク森ビル21階  
TEL：03-5562-3525

日本国内：  
財団法人 日本語国際教育協会  
事業部 日本語・統一試験課  
〒153 東京都目黒区駒場 4-5-29  
TEL：03-5454-5215

## 海外日本語教師短期研修 (春期)

海外の日本語教師の教授能力の向上を図るため、日本語教師を2ヵ月間招へいし、日本語と日本語教授法の集中研修を実施しました。

全体を中等教育機関教員グループと高等教育機関教員グループとに分け、それぞれの教育現場に即した研修を実施しました。

期 間：平成9年4月16日（水）～6月

11日（水）

参加者：計14ヵ国、39名  
内 容：授業（日本語、日本語教授法、日本の文化と社会等）  
課外研修（書道、茶道デモンストラクション、研修旅行等）

## ドイツ語圏大学日本語研究会 シンポジウムの開催

ドイツ語圏の各大学で日本語教授の教鞭を執る教師達のシンポジウムが3月21日～23日にザールブリュッケン大学で開催されました。テーマは、CAIとしての日本語でした。ワークショップが中心となった今回シンプでは、コンピュータを使った日本語教育の可能性が示されました。とりわけ、日本語国際センター日本語教育フェローであったヤボニクムのシュルテ・ベルクム氏がその研究成果を参加者に紹介した際には、参加者から多くの質問・意見が寄せられました。

(ケルン日本文化会館発)

## 『日本語教育通信』 第28号 1997年6月発行

発行・編集  
国際交流基金 日本語国際センター  
〒336 埼玉県浦和市北浦和 5-6-36  
TEL 048-834-1184 FAX 048-831-7846

編集協力  
財団法人 国際文化交流推進協会

The Japan Foundation  
Japanese-Language Institute, Urawa  
(6-36 Kita-Urawa 5-chome, Urawa-shi, Saitama 336, Japan)

©1997 by The Japan Foundation

(表紙イラスト：村井宗二)